

## 愛護センターだより

**発行:敦賀市少年愛護センター**

**住所:敦賀市東洋町1番1号**

**電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523**

『青少年健全育成都市宣言』 都市:敦賀市

## 子どもの自殺

文部科学省が、2020年の1年間で小中高校生の自殺数が499人にのぼると発表しました。これは過去最悪で、ここ数年、子どもの自殺者数は過去最悪を更新し続けているそうです。

コロナ禍により、学校では常にマスク姿で生活することが求められ、お互いに素顔を知らないまま過ごしています。スキンシップは避けられ、ふれ合いの機会が激減。「みんなと一緒に」「みんなで何かを」という取組は減り、充実感や達成感を味わう機会が少なくなってしまっています。多くの体験をし、いろいろなことを学び成長していく子ども達にとって、こうした機会が減ることは、周りの人から認められ、頼りにされることで培われる「自己肯定感」を高めにくくなります。自己肯定感が低いと、ちょっとしたことで「どうせ、私なんか…」と塞ぎ込む心配があります。さらに、自信を失い、自分の欠点ばかりを意識し、罪責感や「自分には価値がない」という思いが強くなり、「自殺」につながりやすくなってしまいます。将来を悲観して絶望し、生きることが苦痛になり、希死念慮（死にたい気持ち）や自殺行動が出現することも少なくありません。



子ども達は、学校の中で友達や先生に気を遣いながら生活しています。そのストレスを軽減させるのが、友達とのスキンシップであったり、先生とのふれあいであったりしたわけですが、コロナ禍により物理的な距離が求められたことで、『人と人との心の距離』も離れてしまっています。「勉強は苦手だけど、友達がいるので学校に行く!」というような子ども達も少なくありませんが、「給食は黙食」「行事は中止」「遊びも制限」…となると、「学校に行きたくない」という思いが募ってしまいます。

自殺のリスク要因として『家庭不和』や『親からの叱責』に加え、ステイホームやテレワークで悪化したと言われてしています。不登校の子ども達の増加も、コロナ禍で欠席しやすくなった面もあるでしょうが、学校に行く楽しみがなくなったことが大きいと考えられます。



コロナ禍で学校行事や部活動が制限され、友達との接触が極端に減るといった、子ども達が置かれている状況は、大人が想像している以上にストレスフルです。子ども同士が触れ合える機会を意図的に持つことが重要で、学校でも家庭でも第三の居場所でも、子ども達が『助けて!』と言葉に出せる、誰かが子ども達のSOSに気付いてあげられることが重要です。

## 高校受験

「中学3年生=受験生」とイメージする人が多いのではないのでしょうか。一昔前には「15の春を泣かさない」という教育スローガンが声高に叫ばれたこともありましたが、その高校入試、福井県ではここ数年で大きく様変わりしています。



|                   |               |      |       |
|-------------------|---------------|------|-------|
| 県立高校一般入試          | 令和5年2月15日・16日 | 合格発表 | 2月22日 |
| 私立高校一般入試          | 令和5年2月1日・2日   | 合格発表 | 2月7日  |
| 県立高校推薦・特色選抜入試     | 令和5年1月17日     | 合格通知 | 1月19日 |
| 私立高校推薦・スポーツ文化選抜入試 | 令和5年1月17日     | 合格発表 | 1月19日 |

数年前に、推薦入試に加えて県立高校で特色選抜試験、私立高校でスポーツ・文化選抜試験が設けられました。昨年度

は県立高校入試がこれまでよりも1ヶ月程早くなり、さらにオンライン出願となりました。

先日の10月14日、県教委が県内の中学3年生7,182人の進路希望調査を公表しました。結果は右の通り。高校での学びを充実させ自分を成長させるためには、「授業についていけなくては…」ということでしょう。「学力に相応」が1位です。さらに、その学校が自分に合っているのかどうかは学ぶ意欲に関わりますから、第2位が

|                         |              |
|-------------------------|--------------|
| 志望校を決定する際に重視すること（複数回答可） |              |
| 第1位 48.0%               | 学力に相応        |
| 第2位 41.9%               | 興味のある学習内容・授業 |
| 志望校選びの情報源               |              |
| 第1位 44.8%               | オープンスクールや説明会 |
| 第2位 26.2%               | 親・兄弟・友達      |

「興味」。その情報を得るために、オープンスクール等への参加が必要ですが、昨今のコロナ禍で満足できない場合もあるかもしれません。



ただ、情報を得ることも大切ですが、「自分」について考えることもっと大切です。子ども達が気にしている「学力」については、普段の学校での成績や広い試験範囲のテストで、どれだけ点数がとれるかを見て判断することができます。一方、「自分を知る」というのは、なかなか難しいことです。学校ではキャリア教育として、自分を見つめる時間を作っていますが、家庭でも子どもの生育歴や個性を踏まえながら、ゆっくりと家族で話し合いをしっかりとしておくことが大切です。中学校3年生の今、将来の目標が決まっていなければならないわけではありません。しかし、本人の興味・関心や適性、「自分は何を学びたいのか」等「自分」を見つめ直し、方向性を出さないといけない時期なのです。自分自身のことは自分ではわかりにくいものです。結果はでなくても、自分についてじっくり考えるということ、そのことが進路選択の大きなポイントになります。

3年生の12月になると入試の準備が始まります。志望校・学科は早めに決まっておいた方が勉強に集中できます。志望校・志望学科が決まっていなくて、周りがみんな決まっているように思えて焦り、将来について展望がないことで迷い、こんなことで大丈夫なのかと不安になり…と、いろいろと思い悩み勉強に手がつかなくなる悪循環に陥ることもあります。進路について話し合い、支え、温かく見守る周りの協力が必要です。



## 教科書がデジタルに！

コロナ禍の影響があり、2019年度からの「GIGAスクール構想」で推進されていた小中学校の“1人1台タブレット端末”整備が一気に進みました。市内小中学校では多くの場面でタブレットを使いながらの授業となっています。タブレットを用いた授業は学習の個別・最適な学びのために、今後ますます力を発揮しそうです。



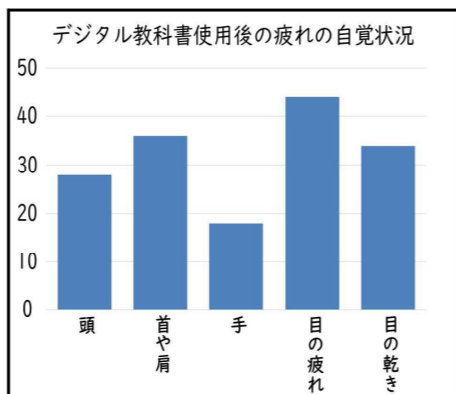
ところで、文部科学省は24年度にまずは小中学校の英語科で、25年度以降には算数・数学科でデジタル教科書導入していく計画です。タブレットの中に教科書が入ることになりますから、タブレットを使う頻度がより多くなりそうで健康面の心配も出てきます。

6月に文部科学省が「令和3年 学習者用デジタル教科書の効果・影響等に関する実証研究事業の成果について」で発表した中に、デジタル教科書を使った授業後に疲れを感じているかどうかを調べたものがありました。右は中学生



の調査結果ですが、4割を超える生徒が「目の疲れ」を訴え、「首や肩の疲れ」「目の乾き」を感じている生徒も3割を超える結果となっています。文部科学省は「目の疲れ＝視力低下ではない」とし、デジタル教科書の使用が視力低下と関係するのかの調査を始めるというコメントを出しています。モニターを見る時間が長くなるわけですから、気になるところです。

さらに、教科書やノートを用いていた家庭学習がタブレットを使っての学習に置き換わっていくことが予想されます。当然、今以上にタブレットに向き合う時間が増えます。学習以外にもスマートフォン等を利用していただけですから、1日の中でかなり多くの時間がICT端末を操作する時間となるでしょう。



内閣府が調査した「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」では、平日小学生が使うインターネット利用は平均3時間27分、中学生が4時間19分、高校生が5時間31分という結果でした。これがもっと増えるということになります。

一方、8月26日の共同通信は、「小学生の読解力、デジタルより紙」という記事を発表しています。広島大などが広島県内の小学校（対象児童284人）で読解力を問う文章問題を、それぞれ紙とデジタル端末で小学生に出題したところ、「1～4年生は紙の教科書の方が平均点で上回った」というのです（5・6年生はデジタル教科書の方が平均点は上）。この調査結果を受けて、広島大大学院の難波博孝教授は「文章に没入し、深く読む読解力の育成には紙の方が適している可能性がある」と話しているそうです。集中して読むために、機器の操作に気がとられてしまうのはマイナスに働いてしまうということでしょうか？

学習の個別最適化のためのICT端末を利用することによって子どもの成長にマイナスとなるなら本末転倒です。よりよい利用の仕方について、しっかり考え、子ども達を見守っていく必要があります。



学習の個別最適化のためのICT端末を利用することによって子どもの成長にマイナスとなるなら本末転倒です。よりよい利用の仕方について、しっかり考え、子ども達を見守っていく必要があります。



## 青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○9月6日（火）17:00～19:00 （一部抜粋）

敦賀駅図書空間「TSURUGA BOOKS&COMMONS ちえなみき」の2階では、迎えや電車の待ち時間を読書や勉強に当てる高校生の姿が多く見られ、施設の方の話では「静かに行儀良く利用しています」とのよい報告を頂いた。高校生はオルパークに5名、ottaに20名程いた。その中に、小学校高学年の女子児童が一人学習しており、声をかけると塾帰りの迎えを待っているとのことだった。スターバックスの店員さんからも話を伺ったが問題となる事案はないようだった。



○9月7日（水）17:00～19:00 （一部抜粋）

JR敦賀駅西地区エリアottaの駅西広場公園芝生の所で、高校生が動画撮影をしていた。また、アル・プラザ敦賀6階の駐車場にも女子高生2人が動画を撮影しており、危ないから気をつけるように声かけをした。学校祭があったようで、いろいろなところで高校生が多く見られた。



○9月12日（月）16:50～18:50 （一部抜粋）

スマートフォンをチラチラ見ながら自転車を運転している中学生を見かけた。運転中で声かけはできなかったが、安全運転を粘り強く行っていくことが大切だと思った。

→スマホ等を操作しながら自転車を運転すると、福井県道路交通法施行細則第16条や道路交通法第71条の3号に違反し、5万円以下の罰金が科せられることとなります。また、左手でスマホを持ちイヤホンをしてながら自転車で乗っていた女子大生が77歳の女性を死亡させたという事故で、禁固2年(執行猶予4年)の有罪判決が出るなど、刑事事件で有罪、民事訴訟で高額な賠償を命じる判決もいくつも出ています。学校に限らず、いろいろな機会を捉えて子ども達に話をしていきましょう。

○9月14日（水）19:00～21:00 （一部抜粋）

小学生がヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている姿を見かけます。学校のルールとして自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶるといふのがあはずです。学校で指導の徹底をお願いします。

→学校では機を捉え、安全指導をしています。自転車利用時のヘルメット着用は「福井県自転車の安全で適正な利用に関する条例（福井県自転車条例）」の努力義務にもなっています。ただ、帰宅後の生活については家庭・地域での指導が中心となります。いろいろな立場で子ども達の安全な生活を見守っていきましょう。

○10月4日（火）17:00～19:00 （一部抜粋）

小学校3年生の男児2人がゲームコーナーで遊んでいたため、お家の人と一緒に買い物に来たのか聞いたところ、自分達だけで来たとのこと。5時を過ぎていたこともあり、帰るよう促し、子どもだけでは来ないようにと伝えました。

